眠れないこどもとノンタン

小さいとき、わたしは寝つきの悪いこどもでした。

保育園でたっぷり２時間お昼寝するからか、夜はさっぱり眠れません。

となりの居間から漏れる光や、まだ起きている家族の話し声、かすかに聞こえるテレビの音に、暗闇でひとりさみしくなったわたしは、「寝れん～」と、となりの部屋に起きていくこともしばしばでした。

そんなわたしが、ノンタンシリーズで一番好きだったのは、「ノンタンおやすみなさい」でした。

同じく眠れないノンタンは、遊び相手を探しにお出かけします。夜中に遊びに行けるなんて、なんて自由なんだろうと、小さなわたしはうらやましく思ったのでした。

当館で開催中の「刊行４５周年記念　ノンタン絵本の世界展　もっと！　ノンタン　みんなだいすき！」では、そんな自由奔放で元気いっぱいのノンタンに出会えます。

あらためてノンタンシリーズを読み返してみると、いじわるな顔や、びっくりした顔、しょんぼりした顔など、くるくると変わる表情のノンタンは、まさしく小さなこどもそのものであり、世代を超えて愛されている理由がよくわかります。

あなたの一番のノンタンを探しに、文学館に来てみませんか。

ノンタン展は9月５日（日）まで開催しています。

（あ）



刊行４５周年記念　ノンタン絵本の世界展　もっと！　ノンタン　みんなだいすき！展示の様子